すべてのランナーへのお願い

2017年4月

私たちにできること

水都大阪ウルトラマラニックでM4Mの活動に協力し始めてから今年で7年目になります。私たちがこの大会で集めたメダルは、城佳子さんの手を介し海を越えてアメリカに行きます。そしてアメリカの子供たちの手に渡ります。遠く日本からでもあなたのことを応援している人がいるんだよ、だから負けないで頑張ろうね！って小さな身体で難しい病気、つらい治療に向かっている子供たちに勇気を贈れたらと思います。またその活動を日本でもと土井健司さんから発信しスタートさせています。今年もみなさまから大切な努力とお気持ちの入った完走メダル（ハーフマラソン完走以上の物ならいつどの大会の物でもOK）のご寄付とリボン代のご寄付を会場で受付します。そのメダルはアメリカと日本の難病治療に立ち向かう子供たちに贈られます。22日、23日はM4Mブースへぜひお立ち寄り下さい。ご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

大会実行委員長　佐田富美枝

こんにちは。初めてのウルトラ参戦の方、ベテランの方、みなさん、いよいよ大会本番ですね。遠くアメリカから応援しています。さて、水都大阪のイベントに過去に参加なさった方には既にご存知の活動になりますが、私たちメダル４メテル（M４M）では、マラソン、ハーフマラソン、そしてトライアスロン（フル・ハーフ）での完走メダルを子供病院や難病の方に送る橋渡しの活動をしています。活動の始めは、アメリカのインディアナ州のお医者様が子供病院で手術を終えた子供たちに、ご自身のマラソン完走メダルを送り始めたのがきっかけです。ご自分のメダルだけでは足りなくなり、また善意がさざ波のように広がり、既に５万個を超えるメダルが様々な病院や機関で病児さんや病院生活をなさっておられる方々の手に渡り続けています。水都大阪ウルトラマラニックで集められたメダルもこれまで１５００個余りのものが海を渡り、アメリカで様々な事情の方に受け取って喜んでいただいています。これまで一つでも寄付してくださった方、そしてメダルにかけるリボン代として寄付のお金を送ってくださった皆様、善意の寄付をありがとうございます。またここ数年、大阪の難病を持つ子供たちの会、の病児さんにもみなさんのメダルは届けられております。中にはメッセージをつけてくださった方もおられることにも感謝しています。今年一年の日本のメダルとアメリカでの結びつきとして、一つのエピソードをご紹介しましょう。アメリカのど真ん中、ミズーリー州のコロンビアに住むジョシュアくんはちょっとしたきっかけでM４Mの活動を知り、１０歳でありながら、支部を運営することにしました。支部運営というのは、メダル集め、受け入れ病院との交渉、リボンは新調したものをつけるのでそのリボン代の資金集め、そして実際のメダルをお渡しする病院でのイベント計画を指します。ジョシュアくんは、M４Mの活動をどこかで目にし、自身も小学校のクロスカントリー部で走るというランナーですが、「面白そうだから」という動機に駆り立てられて始めたようです。彼の行動にチームメートたちも「そりゃ面白そうだね」と活動に賛同し、今や地元の病院で彼ら小学生が活発にボランティア活動しておられる姿にメダルを受け取る病児さんや入院中の方はもちろんのこと、病院関係者の方も大喜びです。しかし、彼らの活動は潤沢なメダルのバックアップがなくては運営できません。そこで、私たちのメダルもそこに届けられています。ぜひよかったら、マラソンやハーフ、もちろんウルトラの完走メダル（入賞メダル不可）を大会受付にお持ちください。このメダル活動、私たちから病院関係者の方に届き、そこでまた様々な人の手を通して患者さんに届けられます。それで大変申し訳ないのですが、入賞の盾やトロフィー、メダルでも入賞した表彰のものは基準のメダルとは異なり受け入れ側の理解も難しく、寄付することができない結果になっていますので、ご協力をお願いいたします。また今回、寄付していただくご縁がなくても「こんな話を聞いたよ」とお友達やご家族に話題にしてくださるだけでも嬉しいです。もちろんメダル集めは強制でもありません。大切なメダルを寄付するのはちょっと、と思われる方の中で活動に賛同していただければリボン代としての寄付でも結構です。よろしくお願いいたします。

アメリカでのM4Mの活動を通じて随時入って来る近況をこちらのブログに書いています。
ぜひご覧ください。 ***http://m4mjapan.blogspot.com/***

Medals 4 Mettle

M4M ウェブページ
www.medals4mettle.org

M４M 日本支部コーディネーター
Yoshiko Jo（城佳子）
連絡先：jo@osakaultra.com

城さんは現在アメリカ５０州
マラソン制覇に向けて毎週走っています。